



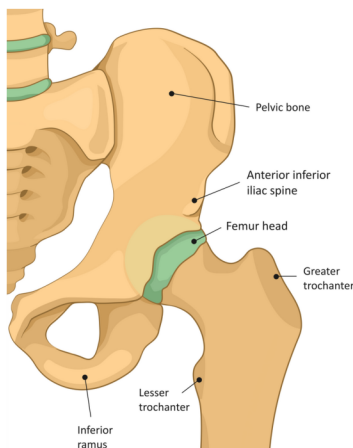
大腿骨寛骨臼インピンジメント (FAI)

意味

大腿骨頭または寛骨臼（ソケット）に変形をもたらす余分な骨があると、股関節の動きが悪くなり、関節唇や関節軟骨が損傷することがあります。この状態は、大腿骨寛骨臼インピンジメント（FAI）として知られています。

FAIは

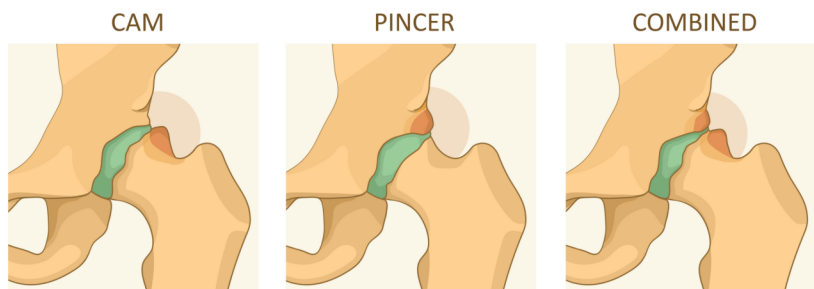
- 一般的な日常生活における活動や動作の結果として発症する。
- 小児期に股関節が正常に発達しなかった結果；
- 極端な動きを必要とする活動（例：ダンスや体操）。
- 運動人口が多い場合、より激しい動き（サッカーやホッケーなど）をしたとき。



PATIENT INFORMATION FACT SHEET

症状が進行すると、股関節の内旋（つま先を内側に向けること）や屈曲（曲げること）が困難になります。この動きの低下を補うために、腰痛、腓径部痛、臀部痛など、他の部位にも症状が現れることがあります。また、臀部の筋肉が股関節を保護するために過剰に働き、その結果損傷することもあります。

FAIには、カムインピンジメント、挟み込みインピンジメント、複合インピンジメントの3つのタイプがあります。



挟み込み - 股関節の屈曲（膝を胸に近づける）時に、大腿骨頸部が寛骨臼（ソケット）の縁の周りにある余分な骨を圧迫し、これが臼蓋を圧迫する。

複合型 - 挟み込み型とカム型の両方が同じ股関節に存在する。

徴候と症状

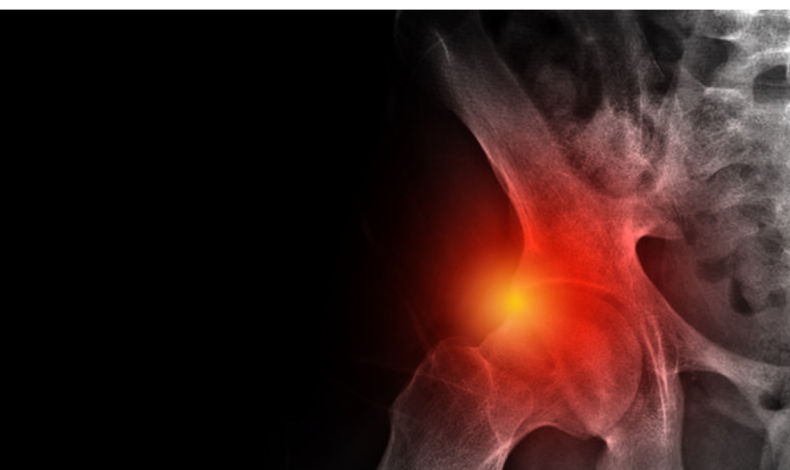
- 痛みは鼠径部や大腿前面に感じることが多いが、臀部や大腿周囲、腰部や膝に生じることもある。
- 股関節のこわばり、それに伴う運動障害。
- 歩行パターンの変化によるびっこ
- 臼蓋裂傷が発症している場合は、キャッチングやクリック音が発生する。

診断

徹底的な理学的検査によりFAIを示唆する疼痛が誘発されることがありますが、より正式な診断の確定や補助にはX線やMRIなどの画像診断が必要となります。

手術以外の治療

- 活動性の改善
- 抗炎症薬の使用
- 股関節、骨盤、腰椎周辺の安定性を改善することで動作パターンを修正し、最終的には悪化させる動作中の痛みの発生を予防することを目的とした理学療法。



手術後に期待されること

関節鏡手術後の回復は一般的に開腹手術後よりも早く、活動への復帰も一般的に容易です。最初の2~3ヶ月は体重の負荷が制限されることがありますが、これは外科医によって異なり、手術中に何が発見され、何が行われたかによります。マイクロフラクチャーを行った場合は、組織と軟骨の治癒を促すために、臼蓋修復術単体と比較して、より長い期間、部分的な体重負担が推奨されることがあります。理学療法は術後から開始することができ、手術の内容や個々の目的に応じて、最長6ヶ月かけて徐々に可動域、安定性、筋力、可動性、機能を高めていきます。

カム - 大腿骨頸部に近い大腿骨頭の端にあるこぶが原因で、大腿骨頭が丸みを帯びた形状を失います。このこぶが運動中に寛骨臼の軟骨や臼蓋と擦れ合う。

CAM病変を示す左股関節のX線像
(Macek, 2024年2月)



外科的治療

治療の目的は、痛みの軽減と機能の改善、股関節の変性や変形性股関節症の発症を予防したり遅らせたりすることです。診断が遅れ、軟骨の損傷がさらに進行した場合、手術の成績は悪化する傾向があります。手術は、インピンジメントのタイプや他の治療が必要な部位の位置によって、関節鏡視下または観血的に行われます。治療には以下が含まれます：

- 臼蓋断裂の修復：多くの場合、臼蓋を寛骨臼の縁に縫い付けることができ、そこで治癒する。
- 損傷や擦り切れのある軟骨や骨棘を取り除き、運動時の摩擦を軽減する。
- 軟骨や骨の緩みを取り除く。
- 骨形成術 - 大腿骨頸部や寛骨臼の形を整える。
- マイクロフラクチャーなどの技術を用いた軟骨損傷部位の治療
- 周囲の軟部組織に対する治療：炎症を起こしている関節包の除去、臀部腱の修復、癒着組織（癒着）の除去などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。